

授業科目(ナンバリング)	スポーツ科学概論 (GC111)			担当教員	中山忠彦、末永貴久、江島弘晃 神野周太郎、長津恒輝、※笠原美鈴		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	1年・後期	必修・選択	選択 (2023入学生より コース必修)
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>スポーツの指導者・コーチとはどうあるべきか、コーチングも現状と課題の学習等を基礎として、スポーツの指導・コーチングの具体的な方法を身につける。現在、スポーツ活動に関する科学は、多分野に及び、対象と目的に合わせて安全に指導を行う上で必要な知識を指導者は習得する必要がある。スポーツ諸科学の知見を実際の指導現場で活用できる能力を身につけることを目的とする。</p>							②⑤⑥⑩
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・ 方法	評価 比率	
専門力	・スポーツ指導に関して専門種目の指導法を立案することができる。				授業内課題	20%	
情報収集、 分析力							
コミュニケーション力	・スポーツ指導に関するスポーツ諸科学の知識を説明できる。				授業内課題 定期テスト	10% 50%	
協働・課題解決力	・授業内の課題やワークに真摯にとり組むことができる。				授業態度	10%	
多様性理解力	・様々なアスリートが存在することを理解し、個々のアスリートに合わせたコーチング方法を立案できる。				授業内課題	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>①授業内課題(40%)：ポートフォリオ上にてワーク課題を設定し、授業内容の理解及び授業内容に対する思考、発想について評価する。フィードバックは、課題対応に問題がある場合に行う。②受講態度(10%)は、10点満点からの減点法とし、不適切行動に対して減点する。③最終課題レポート(50%)：講義内容に沿った基礎的な知識の理解及び自身の思考、発想、およびコーチングレポートについて評価する。</p>							
授業の概要							
<p>ワーク中心の授業となるため「覚える」よりも「考える」ことに重要を置いている。講義中に決められた時間で自分の考えをまとめ、説明できるように整理し、発表を行う。専門的知識、指導計画立案、倫理観といったスポーツ指導者に必要な能力を身につけることを目指す。また、講義中の質問に対して学生個人の意見を求める場合もある。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：講義内容について適宜資料を配布する。 参考書：公益財団法人日本スポーツ協会 著 『リファレンスブック』 日本スポーツ協会の専用ページから購入可能：教科書注文ページ <a href="https://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid/677.html">https://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid/677.html</a> (日本スポーツ協会 HP 内) ※日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格取得希望者は購入を推奨する。 指定図書：公益財団法人日本スポーツ協会 著 『リファレンスブック』</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>将来スポーツの指導者を目指す可能性のある学生の受講を希望する。 スポーツの価値について、主体的に学び続けることを期待します。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション スポーツ科学を学ぶ意義	本講義の目的、内容等の説明、日本スポーツ協会の指導者養成の基本原理の説明、スポーツと健康 (中山)	予) シラバスを熟読する、 受講規則を確認する 復) 到達目標の確認
2	スポーツ指導者の役割(1)	スポーツ指導者とは、指導者の心構え・視点、プレーヤーと指導者の望ましい関係、スポーツ指導における科学、ティーチングとコーチング(中山)	予) 専門種目の競技者育成プログラムを調べる 復) 指導者の役割の確認
3	スポーツ指導者の役割(2)	アスリートの育成・強化の有り方と指導者の役割、コーチングスキル、ミーティングの方法(中山)	予) これまで経験したミーティングを振り返る 復) コーチングスキルの確認
4	スポーツと法	スポーツ指導者の法的責任、スポーツと人権、スポーツ倫理、ドーピング違反、インテグリティ、日本スポーツ仲裁機構(神野)	復) 日本スポーツ仲裁機構の仲裁事例を1事例確認する
5	文化としてのスポーツ	スポーツの意義と価値、スポーツの定義、文化としてのスポーツ(神野)	予) スポーツの語源を調べる 復) 小レポート「スポーツ指導者の役割」作成
6	社会の中のスポーツ	現代社会とスポーツ、スポーツ産業化と発展、スポーツ業界と指導者の関係、スポーツプロモーション(神野)	復) スポーツ社会学で扱う分野を調べる
7	救命救急と安全管理の実際	スポーツ活動中に多いケガや病気、スポーツ活動と安全管理、スポーツ活動と熱中症予防 (改革総合支援事業；西九州大学副学長 菅原教授)	予) スポーツ活動における暑熱対策を調べる 復) スポーツ施設における危機管理体制の確認
8	地域におけるスポーツ振興	地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわり (末永)	予) 地域のスポーツ振興施策についてまとめる
9	スポーツ組織の運営と事業	スポーツ組織の運営、地域スポーツクラブの指導者、スポーツ事業の計画・運営・評価(末永)	予) 近隣のスポーツクラブを見学する 復) スポーツ事業運営計画の作成
10	スポーツの心理	スポーツと心、スポーツにおける動機づけ、コーチングの心理、発育発達期の心理的特徴(神野)	復) 対象に応じたスポーツ選手の心理についてまとめる
11	スポーツとジェンダー	女性アスリートの三主徴、女性アスリートのフィジカルトレーニング、性別の考慮(笠原)	予) 女性アスリートの健康問題を調べる 復) 性別を考慮した指導方法を確認
12	対象に合わせたスポーツ指導	運動不足が心身にもたらす影響、中高年者とスポーツ、障害者とスポーツ、指導計画の立案(江島)	予) 運動不足の心身への影響を調べておく 復) 対象に応じた指導計画を立案する
13	ジュニア期のスポーツ	発育発達期の身体的特徴、発育発達期に多い外傷・障害や病気、発育発達期のプログラム、選手育成・強化の在り方と指導者の役割、競技者育成プログラム (中山)	予) 骨端症について、病名と後発年齢を調べる 復) ジュニアスポーツの指導現場を見学する
14	スポーツ指導計画の立案	指導計画のたて方、スキルの獲得とその獲得過程、指導計画の立案とディスカッション、競技力向上のための情報とその活用(長津)	予) スポーツ指導計画立案の原則を確認する 復) 専門種目の指導計画を立案
15	競技者育成のための指導法まとめ	アスリート育成のため指導者が持つべき視点、競技力向上のためのチームマネジメント、アスリートの育成・強化とその評価、アスリートの育成・強化の在り方と指導者の役割(中山)	予) 指導法立案と発表 復) 本講義で学んだことをレポートにまとめる